



愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学附属中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

平成 29 年秋季版

(平成 29 年 11 月 14 日)

高校卓球部が 2 年連続でインターハイ完全制覇！



高校総体 2 年連続完全制覇を成し遂げた愛工大名電高校卓球部

愛工大名電高校卓球部が、今夏のインターハイで学校対抗・シングルス・ダブルスの全種目優勝を成し遂げました。インターハイ完全制覇は、昨夏に続いて 2 年連続。さらに主将の木造勇人選手（3 年）は、名電として 1968 年の内藤良司選手以来 49 年ぶりとなる全種目優勝（高校 3 冠）を達成しました。卓球名電の輝かしい歴史に、また新たな 1 ページが加わりました。

インターハイ卓球競技は 7 月 29 日～ 8 月 2 日に福島県の郡山総合体育館で開かれ、学校対抗の決勝は遊学館（石川県）との対戦になりました。1 番の宮本春樹選手（3 年）は 1 - 2 と相手にリードを許したものの、第 4 ゲームから粘りをみ

せて逆転勝利。続く 2 番シングルスも、3 番ダブルスまで連続で戦う木造選手が「あとは自分が全部勝つ」の気迫で臨み、3 - 0 で完勝しました。優勝に王手をかけたダブルスは、木造・高見真己選手（3 年）ペアが粘る相手を 3 - 1 で振り切りました。

シングルの決勝では、準々決勝で高見選手、準決勝で田中佑汰選手（2 年）の名電勢を連破した野田学園（山口県）の戸上隼輔選手を、木造選手が迎え撃ちました。第 1 ゲームから競り合う展開となり、ここ一番の強さを発揮した木造選手が 3 - 1 で勝利を収めて 2 年連続で高校生の頂点に立ちました。



優勝を決めた木造・高見ペア

ダブルスの決勝は、3 年生の木造・高見ペアと、2 年生の田中・1 年生の加山裕選手のペアによる名電同士の対戦になりました。田中選手は昨夏は高見選手と組んでダブルスで優勝しており、連覇を目指して加山選手と果敢に攻めましたが、木造・高見ペアが先輩の意地を見せて 3 - 1 で優勝を飾りました。

高校卓球部は、春の選抜と合わせ、これで全国大会 5 連勝。今枝一郎監督は「この大会が、これまでで一番プレッシャーを感じました。学校対抗は後半勝負のオーダーを組んだ遊学館に対し、カギ

を握る 1 番の宮本が素晴らしい逆転勝利を見せてくれました。また、1 回戦からストレートで勝ちあがってきた中で唯一の黒星となった準々決勝での木造の敗戦により、チームの団結が強まった側面もありました。ぎりぎりの状態で戦いながら最高の結果を出した木造をはじめ選手たちは皆レベルアップし、本当によく頑張ってくれました」と大会を振り返っています。

学園は 10 月 20 日、夏の大会で全国制覇を成し遂げた高校卓球部、附属中卓球部（記事 2 面）、高校フェンシング部と附属中フェンシング部（記事 3 面）に対して学園表彰を行い、快挙をお祝いしました。クラブ活動後援会からもお祝いが贈られました。



木造主将は高校 3 冠！

高校 3 冠の木造主将



逆転勝利の宮本選手を迎える今枝監督ら
(写真は、いずれもニッタクニュース提供)

中学卓球部は全中5連覇、全国大会10連勝！

附属中学卓球部は大分県別府市で8月22～25日に行われた全国中学校卓球大会で、団体戦5連覇を飾りました。これで全中優勝は通算11回目、春の選抜と合わせると全国大会10連勝となりました。

団体戦では、準決勝で明德義塾（高知県）を破り、決勝で昨年と同じ相手の野田学園（山口県）と対戦しました。1番の篠塚大登選手（2年）と2番の曾根翔選手（3年）が連勝し優勝に王手をかけましたが、接戦となった3番ダブルスと4番シングルスをとともに



優勝を決めた横谷主将

（写真は、いずれもニッタクニュース提供）

落としました。最後は主将の横谷晟選手（3年）が序盤から相手を圧倒、気迫のプレーでチームを5連覇に導きました。

また、個人戦では曾根選手が準優勝、谷垣佑真選手（2年）と鈴木颯選手（1年）が3位、横谷選手がベスト8入りの成績を収めました。真田浩二監督は「ベスト8決定の際、4人が接戦で負けました。ベスト8独占も実現するかというところで、逆に負けて課題が明確になりました。勝っていたら、喜んで帰って終わりだったと思います。次へステップするため、何をすべきかが分かったので、選手とともに終わってすぐに前向きに出来ました」と話しています。



全中5連覇を達成した愛工大附属中学卓球部

国体・卓球も学園選手が活躍

第72回国民体育大会の卓球競技（9月30日～10月4日・愛媛県宇和島市総合体育館）で、愛知県選手団は少年男子に出場した名電高勢の活躍が目覚ましく、2年連続で卓球競技男女総合優勝を果たしました。

少年男子には、名電高校から木造勇人、高見真己、田中佑汰の3選手が出場しました。山口県と対戦した準決勝は高見・木造両選手が敗れる苦しい展開となりましたが、総合力で勝ち上がり、2年連続で少年男子優勝を成し遂げました。名電高校卓球部は3月の全国高校選抜、8月の高校総体と合わせ、目標だった国体との「3冠」も達成しました。

大学卓球部の松山祐季選手（経営学科1年）、神京夏選手（同2年）が出場した成年男子も3位の成績を収め、愛知県の総合優勝に貢献しました。

世界卓球 吉村・石川ペアが金メダル

5月29日～6月5日に開催された世界卓球選手権ドイツ大会個人戦で、混合ダブルスの吉村真晴選手（本学出身、名古屋ダイハツ）と石川佳純選手（全農）のペアが優勝を果たしました。この種目での日本勢の優勝は、ともに本学出身の長谷川信彦選手・今野安子選手ペア（1969年ミュンヘン大会）以来、48年ぶりです。

吉村選手は経営学科4年生だった2015年の世界卓球で石川選手とペアを組み、混合ダブルスで惜しくも銀メダル。そのリベンジ、を誓って今大会に臨みました。準決勝、決勝ともに、1-3から3ゲームを連取しての逆転勝利を成し遂げ「応援していただいた皆さんに恩返しことができました」と喜びを爆発させました。

コーチとして参加し、ペアと共に前回の雪辱を期した本学男子卓球部の鬼頭明監督は「苦しい場面でもミスを恐れず、最後まで果敢に攻めた。前回の敗戦経験が生きたと思う。勝因はやっぱり、メンタルの強さ」と語っています。



金メダルの吉村真晴・石川佳純選手
（写真提供：ニッタクニュース）

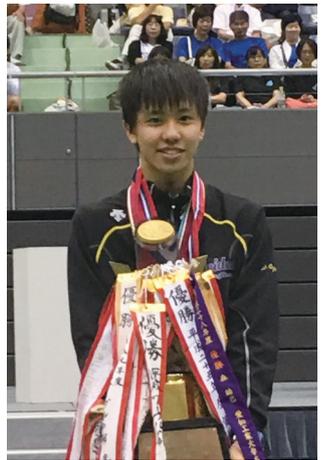
今夏もそろって活躍 中高フェンシング部

愛工大名電高校と愛工大附属中学校のフェンシング部が、今夏の全国大会でもそろって活躍しました。

8月1～4日に宮城県気仙沼市で行われた全国高校総体のフェンシング競技では、男子個人サーブルに出場した尾矢陽太選手（2年）が優勝しました。昨年度、同種目で森皓己選手（現愛工大1年生）が優勝しており、名電高校として2連覇を達成しました。

尾矢選手は1年時に17歳以下男子サーブル日本代表に選ばれ、17歳以下の世界選手権、アジア選手権にも出場しているため、今大会の優勝候補でした。予選プールは全体の1位でトーナメント戦への進出を決め、順調にベスト4に進みました。準決勝は尾矢選手とともに17歳以下の日本代表に選ばれている森多諒選手（柳井学園高）と対戦。点数を取り合って試合中盤までは7-8、後半戦も交互に点数が入って13-13と緊迫する展開となりました。尾矢選手は強みである「自由なアイデア」を出し続けることで相手の戦術を上回り、15-13で決勝へコマを進めました。

決勝は昨年同種目で3位の上野優斗選手（大分翔青高）と対戦し、最後まで集中力を切らさず15-5と圧倒して優勝を決めました。富田弘樹監督は「来年度は愛知県でインターハイのフェンシング競技が実施されるので、名電高校として3連覇を目指し頑張っていきたい」と話しています。



サーブル優勝の尾矢選手



団体2連覇の附属中フェンシング部

7月22～24日に東京の駒沢オリンピック公園で行われた第3回全国中学生フェンシング選手権大会では、男子団体で愛工大附属中が昨年度に続いて優勝しました。

昨年度の試合後、太田拓輝選手（3年）を中心に、どのようなチーム体制で望むのか模索しました。太田選手がサーブル、弓長昇主選手（1年）がフルーレ、伊藤真吾選手（3年）はエペという体制で、伊藤選手は経験のないエペの練習に励みました。

試合に入ると、個人戦でフルーレ、サーブルともに3位入賞を果たした太田選手を中心にチームが一丸となりました。決勝は岐阜県のはしまモアフェンシングクラブとの東海

対決になり、初戦の弓長選手が負けましたが次戦の太田選手、続いて伊藤選手がともに勝利して2連覇を達成しました。太田選手は個人戦の勢いをそのままに弓長選手を引っ張り、伊藤選手は試合を重ねる毎に成長がうかがえました。川嶋範夫部長は「昨年度に比べ戦力は劣っているのではないかと感じていました。どのチームもフルーレ、エペ、サーブルの各種目専門の選手をそろえてきた中、2連覇を達成できたのは選手の意識に尽きると思います。選手の意識の高さが競技の成長に大きく関与していることを実感させられました」と話しています。

後藤杯卓球 名電高校がベスト4独占

第46回後藤杯卓球選手権大会（名古屋オープン）は9月16～18日の3日間、愛知県体育館で開催されました。ピンポン外交に尽力した後藤鉦二先生の遺徳をしのぶ大会に、全国から約600人が参加して熱戦を繰り広げました。

男子ジュニアでは名電高校勢がベスト4を独占し、6人がベスト8入りする活躍を見せました。加山裕選手（普通科1年）が優勝、加賀美利輝選手（普通科2年）が準優勝し、3位は田原彰悟選手（普通科2年）と高須航選手（普通科1年）でした。

このほか、大学卓球部選手も男子シングルスで上江洲光志選手（経営学科4年）が準優勝、堀大志選手（経営学科4年）が3位などの成績を挙げました。附属中の横谷晟選手（3年）も男子ダブルスで岐阜県の選手と組んで3位となりました。

今夏の全国大会 高校生たちの活躍

【全国高校総体】

- ▽バレーボール部が31年ぶりに3位入賞
- ▽相撲部が団体5位入賞
- ▽水泳競技部の若林佑希子選手（2年）が飛板飛込で3位入賞

【JAPAN CUP チアリーディング日本選手権】

- ▽チアリーディング部が高校部門4位入賞

【日本高校ダンス部選手権】

- ダンス同好会がスモールクラス10位

※このほかにも多くのクラブが今夏の大会で立派な成績を収めました。

ユニバーシアードでは2つの銀メダル



混合、団体で銀メダルの吉村和弘選手
(写真提供：ニッタクニュース)

チャイニーズタイペイで8月22～29日に開かれた第29回ユニバーシアード競技大会卓球競技で、混合ダブルスに出場した吉村和弘選手が準優勝を飾りました。

吉村選手は、専修大学の安藤みなみ選手とペアを組んで混合ダブルスに出場し、韓国ペアとの対戦になった決勝では、接戦の末に3-4で優勝を逃しました。吉村選手や本学卒業生の吉田雅己選手(協和発酵キリン)らが出場した男子団体も準優勝の成績を収め、吉村選手は今大会で2つの銀メダルを獲得しました。

協和発酵キリンを迎えホームマッチ

6月7日から11日まで松江市総合体育館で開かれた平成29年度前期日本卓球リーグ松江大会で、大学男子卓球部は2勝5敗の成績で5位のリコーと並び、得失差で6位となりました。

松江大会に先立って5月20日、八草キャンパス小体育館卓球場で協和発酵キリンを迎えてホーム



吉村(左)・松山組

マッチが行われました。協和発酵キリンは前年度前期・後期優勝、ファイナル4優勝を飾った強豪です。本学卓球部は2-3で惜敗しましたが、ダブルスの吉村和弘選手・松山祐季選手組が松平賢二・上田仁選手組に2-1で競り勝ったほか、4番手で登場した松山選手が相手主将の笠原弘光選手にストレートで勝利しました。当日は約200人のファンが訪れ、白熱した試合を見守りました。試合後には会場で開かれた無料の講習会に参加し、本学の部員たちとラケットを交えて和やかに交流しました。

順当に決勝に勝ち進みました。決勝戦は、イスマイロフ選手(ロシア)に2ゲームを先制されてから2ゲームを取り返す接戦に。最終ゲームでは相手に2度のマッチポイントを許しながらも逆転し、ワールドツアー21歳以下の部で初となる優勝を獲得しました。

学園表彰では、後藤泰之理事長が鬼頭明監督、大元司顧問と松山選手に表彰状などを手渡しました。クラブ活動後援会からもお祝いが贈られました。後藤理事長から「海外で一つずつ実績を上げ、ぜひ東京オリンピックを目指してほしい」と激励された松山選手は「大学生になって自分でメンタルをコントロールできるようになり、ぶれない心で接戦を制することができました」と笑顔で振り返りました。

インカレ卓球 男子は3位

第87回全日本大学総合卓球選手権団体の部は7月6～9日、北海道立総合体育センターで開かれ、大学男子卓球部は3位入賞、大学女子卓球部は6位入賞の成績でした。男子は2年ぶり7回目の優勝を逃しました。女子は4年連続ベスト8となりました。

吉村選手、惜しくも準優勝

大学卓球部の吉村和弘選手(経営学科3年)は第84回全日本大学総合卓球選手権個人の部(10月26～29日・所沢市民体育館)決勝で森蘭政崇選手(明治大)と対戦、優勝に手が届きかけましたが3-4で敗れ、惜しくも準優勝でした。吉村選手は2ゲーム先取した後に追いつかれ、最終ゲームでジュースに突入。マッチポイントを握りながら、あと一歩で優勝を逃しました。

東海学生リーグは男女とも全勝

9月22～24日、愛知県一宮市総合体育館で開催された平成29年度東海学生卓球秋季リーグ戦で、大学男子卓球部と女子卓球部がそれぞれ全勝し、1部リーグ優勝しました。男子1部優勝は21季連続93回目、女子1部優勝は2季連続64回目となります。



男子卓球部



女子卓球部(いずれの写真も東海学生卓球連盟提供)

このほか、男子では松山祐季選手(経営学科1年)、女子では船本さくら選手(同2年)がそれぞれ最優秀選手賞を受賞しました。

松山選手の活躍に対し学園表彰



表彰された松山選手ら

大学男子卓球部の松山祐季選手がITTFチャレンジ・スロベニアオープン(4月26～30日)の21歳以下の部で優勝したことに

対する学園表彰が、7月11日に八草キャンパス本部棟で行われました。

松山選手は、1回戦で対戦した第1シードのゲラシメンコ選手(カザフスタン)を3-1で下し、

全日本大学駅伝に6年ぶり16回目の出場

大学陸上競技部は11月5日、全国の大学が出場できる、真の日本一を決める第49回全日本大学駅伝(熱田神宮～伊勢神宮)に6年ぶり16回目の出場を果たし、21位の成績を収めました。



力走し21位の成績を収めた本学陸上競技部

1～8区計106.8kmに、**松井駿佑選手**(経営学科4年)、**植松達也選手**(同2年)、**岡本優樹選手**(同3年)、**生川智章選手**(同4年) =写真⑥=、**児玉勘太選手**(同2年)、**高橋創太郎選手**(同2年)、**鈴木高虎選手**(同1年)、**唐澤研太選手**(同4年)が出場。最終8区でたすきをつなげず繰り上げスタートとなりましたが、選手たちは5時間34分8秒のタイムに自信を深めた様子でした。



大会を振り返って 奥野佳宏監督

6年ぶり16回目の出場を7月の予選会で決め、11月の本戦に向けて準備をスタートすることになった。8月は、10日間の準高地(標高1400m)で強化合宿後、9月に標高1600mでの高地短期合宿を実施した。高地トレーニングの実績からトレーニング計画を立案して実施したが、9月のレースでは思い描いている結果を得ることは難しく、チーム状況としても手ごたえのある結果につながらなかった。10月中旬過ぎより、競技会で自己記録を更新する選手、中には大学記録を更新する選手が出たこともあり、チーム状況は上昇し、メンバー入りの厳しさが増した。

本大会の目標は、母校のたすきをつなげること、次年度東海地区出場枠を守ることであった。たすきをつなげるためには、5区までに先頭から10分以内、以後15分以内でたすきをつなぐ必要がある。1区(区間14位)で関東、関西勢より先行し、2区、3区、4区と予定通りのタイムでレースを進めたが、先頭はさらにハイペースでレースが展開された。5区スタート時、20秒、10秒と繰り上げスタートが迫る。あと5秒で5区がスタート。以後、繰り上げまで15分に延長されるので予定通りのペースで行けば、7区まではたすきがつながることを確信した。最終8区でたすきをつなげることは叶わず、7校が繰り上げスタートとなり、総合順位21位でゴールした。目標を達成することは出来なかったが、大きなミスもなく、予定通りのペースで106.8kmを刻んだことは自信となり、次こそは必ず伊勢までこのたすきをつなごうと誓った。

卒業生、選手の家、大学関係者、競技部員、出身高校の先生、サポートいただいている方々が沿道などへ応援に駆け付けてくださり、多くの声援、ねぎらいの言葉をいただいたことに感謝し、今後も挑戦者の心を忘れず日々過ごしていきたい。



後藤学長から目録を渡される横井俊哉君ら

学長投資第1号はソーラーカープロジェクト

ものづくりに挑戦する学生たちを支援する後藤泰之学長の学長投資第1号として、ソーラーカープロジェクトに対して300万円が贈られました。

毎夏の「ソーラーカーレース鈴鹿」に参戦するための車両製作が支援対象で、現在、改良を続けている車体はカーボン製の全長4900mm、全幅1660mm、全高1000mm、重量100kg。2014年度まで使用していた旧車体(全長4320mm、全幅1790mm、全高1200mm、重量180kg)と比べ、大幅に軽量化が進んでいます。

ソーラーカープロジェクトの構成メンバーは、電気学科、応用化学科、機械学科の1～3年生合わせて29人。今夏の大会(8月4、5日・鈴鹿サーキット)での走行データと車体の状態から問題点を洗い出し、改善点などを検討しています。車両全体の性能向上、電力系統の見直しを行いながら当面はクラス3位を目標に置き、最終的に優勝できるように活動していきたいとしています。

7月18日、学長投資第1号の贈呈式が八草キャンパス本部棟で行われ、後藤学長が代表の横井俊哉君(電気学科3年)に目録を手渡しました。横井君は「選んでいただいて光栄です。ご期待に応えられるよう、チーム一丸となって努力します」と活躍を誓いました。



島田翔大選手



大学フェンシング部

団体全種目と個人戦でインカレ出場へ

大学フェンシング部は、9月19～24日に豊橋市総合体育館で開かれた第67回関西学生フェンシング選手権大会で、団体戦のエペで準優勝したほか、サーブルで3位、フルーレで4位に入賞しました。個人戦ではサーブルで島田翔大選手（経営学科3年）が優勝、森皓己選手（同1年）が準優勝などの成績を収めました。この結果を受けて団体全3種目で11月14～18日に駒

沢オリンピック公園で開かれる全日本学生フェンシング選手権大会（インカレ）出場が決定し、個人戦でも島田選手をはじめ9選手がインカレへの出場権を得ました。

全日本学生フェンシング王座決定戦でフルーレ3位、サーブル4位

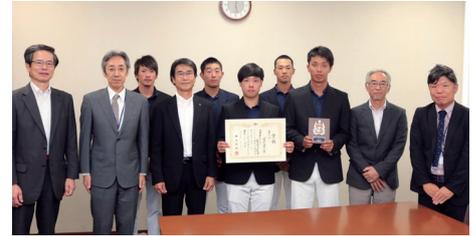
4月22日～5月20日に開かれた第67回関西学生フェンシングリーグ戦で、大学フェンシング部がフルーレとサーブルで2位、エペで3位と健闘し、総合準優勝しました。同時開催された新人戦では森皓己選手がサーブルで優勝しました。

この結果を受け、フェンシング部は6月4日に豊橋市総合体育館で開かれた第67回全日本学生フェンシング王座決定戦に出場し、フルーレで3位、サーブルで4位の成績を収めました

大学ゴルフ部

2年ぶりに信夫杯に出場

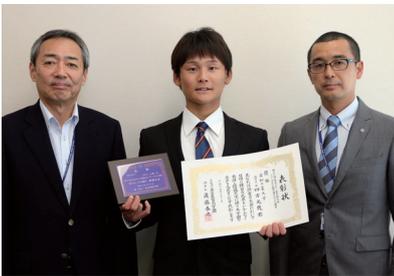
大学ゴルフ部は9月12、13日に津カントリー倶楽部で開かれた中部学生ゴルフ秋季1部・2部大学対抗戦で、1部校3位の成績を収めました。この結果を受け10月26、27日に千葉カントリークラブ梅郷コースで開催された第61回信夫杯日本学生ゴルフ対抗戦に2年ぶりに出場し、13位の成績を収めました。信夫杯は学生ゴルフ団体戦で最古の歴史を持つ大会で、昨年は出場権を逃し悔しい思いをしました。今年、ゴルフ部は春季に北海道で開催された全国大会と合わせ春・秋連続して全国大会への出場権を獲得。また信夫杯に先立ち、10月24、25日に同じコースで開かれた個人戦「第64回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権」には、中部地区を代表する10人の選手が選出され、本校からは河合和真選手（経営学科3年）が3年連続で出場しました。



出場報告に訪れた大学ゴルフ部

愛知県学生ゴルフ選手権で2部門完全制覇

大学ゴルフ部は8月28～29日に笹戸カントリークラブで開かれた2017コカ・コーラボトラーズジャパン杯争奪愛知県学生ゴルフ選手権競技に参加し、同競技会3部門のうちD2(競技ゴルフを志向する学生の部)、D3(医歯薬大学を除くアベレージゴルファー対象の部)2部門の各1～3位を独占しました。通算3アンダーパー(69,72=141)でホールアウトした佐野琢朗選手(経営学科2年)が総合優勝し、大会2連覇を達成しました。



表彰された四方選手ら

大学競技スキー部・四方元幾選手の活躍に対して学園表彰

大学競技スキー部の四方元幾選手(経営学科4年)が、3月に富山県南砺市・たいらスキー場で開かれた第37回全日本スキー選手権大会フリースタイル競技のモーグルで初優勝しました。学園は6月1日、競技スキー部に対して学園表彰を行いました。

四方選手の全日本制覇は、昨年のデュアルモーグルに続いて2回目です。今季の世界選手権で2冠を達成した堀島行真選手(中京大)や他のナショナルチームメンバーが出場している中での価値ある優勝となりました。四方選手は外国人選手に負けないパワーをつけるために意識

して食事量を増やし、筋力トレーニングの割合を高めることで課題だったスピードに対応できるようになりました。現在は2018年の平昌五輪出場を目指し、雪上・陸上トレーニングに励んでいます。

学園表彰は八草キャンパス本部棟で行われ、後藤泰之理事長が四方選手と西裕之監督に表彰状を手渡して「ぜひともオリンピックを目標に頑張ってください」と期待する言葉をかけました。

四方選手が平昌五輪派遣選考で勝ち残れるかは「ギリギリのライン」(西監督)といいますが、今季の全日本強化指定選手にも決定し、夢に向かって一步前進。後藤理事長の激励にこたえて「この大学の学生としてオリンピックを目指すという目標に向かって一つずつ階段を上ることができました。最後のシーズンも逆境があると思いますが、諦めずに精進していきたいです」と今後の活躍を誓いました。

高校吹奏楽部が全日本吹奏楽コンクールに全国最多 40 回目の出場

高校吹奏楽部は 10 月 22 日に名古屋国際会議場で開かれた第 65 回全日本吹奏楽コンクールに高校部門全国最多となる 40 回目の出場を果たし、銀賞に輝きました。自由曲には「宇宙の音楽」(P・スパーク作曲)を選び、顧問の伊藤宏樹教諭の指揮により、楽曲の世界観を情感豊かに表現しました。演奏が終わると同時に声援と大喝采が起こる名演となりました。同部は 10 月 14 日に日本ガイシホールで開かれた第 31 回東海マーチングコンテストでも金賞・朝日新聞社賞を獲得し、11 月 19 日に大阪城ホールで開かれる全国大会に出場します。

来年 1 月 9 日の定期演奏会(センチュリーホール)で感動再び



演出にも工夫を凝らしたサマーコンサート

一方、同部のサマーコンサートは 7 月 14 日に瀬戸市文化センター文化ホール、同 19 日に名古屋国際会議場センチュリーホールで、それぞれ開かれました。両会場ともプログラムは 3 部構成で、180 人の部員が織りなす華やかな演奏が会場の吹奏楽ファンを魅了しました。

単独公演としては初となる瀬戸市の会場では、顧問の伊藤宏樹教諭が「この素晴らしいホールで演奏したいという夢がかないました」と挨拶しました。第 3 部のプログラムのうち、豪雨災害に襲われた九州北部にエールを送った「花は咲く」の演奏では、客席を埋めた吹奏楽ファンも配られた歌詞カードに目を落として熱心に歌声を重ねました。

大学管弦楽団定期演奏会 20 回の節目の難曲



第 20 回の節目を迎えた定期演奏会

愛知工業大学管弦楽団の第 20 回定期演奏会が 9 月 3 日、名古屋市三井住友海上しらかわホールで開かれました。20 回の節目に際し、めったに演奏されてこなかった難曲であるカリンニコフの作品などに挑みました。

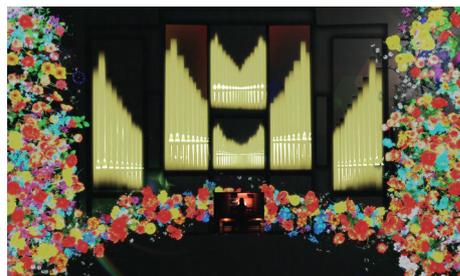
東海地方を中心に多くの演奏団体の指導に当たる中村暢宏氏を今年も指揮者に迎えました。プログラムはロシアもので統一し、カリンニコフ作曲「交響曲第 1 番ト短調」、シベリウス作曲「交響詩フィンランディア」、ボロディン作曲「交響詩中央アジアの草原にて」の 3 曲を披露しました。コンサートマスターを務める中村真大さん(機械学科 3 年)ら出演者たちの生き生きとした演奏に、客席を埋めた本学関係

者や音楽ファンから盛んな拍手が贈られました。

大学管弦楽団は昭和 58 年に同好会からスタートし、東海学生オーケストラ連盟に所属する他大学の学生の賛助出演を得て演奏会活動を続けています。水野一平監督は「『練習はうそをつかない』と地道な努力を重ねてきた団員たちは、立派に演奏を終えて充実感を得ているようです」と話しています。

チーム AI が徳岡めぐみさんのパイプオルガンとコラボ

大学メディア情報研究会 / チーム AI (情報科学科・鳥居一平教授) は 7 月 31 日、東京都のすみだトリフォニーホールで開催された「徳岡めぐみ パイプオルガンリサイタル」でプロジェクションマッピングの映像を披露し、コンサートに華を添えました。公演は 2 時間に及び、全 9 曲中 5 曲の映像を 1 年生から 4 年生まで総勢 80 人が制作しました。今回の映像は平成 27 年秋に豊田市で徳岡さんのコンサートとコラボした時と比べ格段にレベルアップした内容になりました。徳岡さんは「他のプロジェクションマッピングとコラボ経験があるオルガニストも来てくれ、映像にとっても感動していました。チーム AI の皆さんの取り組みは真にプロフェッショナルで芸術的なことなのだと確信し、さらに誇らしく思いました。一緒にさせていただいて本当にありがとうございます」と共演を喜び、今後もこの関係を続けていきたいと話していました。



華を添えたプロジェクションマッピング



大学レーシングカート部が全国学生選手権で悲願の総合優勝

第22回全国学生カート選手権（8月16日・豊田市石野サーキット）で本学レーシングカート部が全クラスを制覇、6年ぶり4回目となる総合優勝を決めました。前日からの雨の影響により完全ウェットのコースでレースはスタート、アクシデントが多発する波乱の大会となりました。最初に行われたYAMAHA-TIAクラスでは、予選ヒートで接触し8番手からのスタートとなった岡崎幹選手（機械学科2年）＝写真⑤＝が怒濤の追い上げで逆転優勝したほか、ジャンプアップ賞も獲得し、チームの士気を高めました。続くFDオープンクラスでは、4番手スタートからすぐにトップに浮上した夏日南斗選手（同2年）＝同④＝が後続を引き離して優勝。YAMAHA-S Sクラスはフロントローを角谷昌紀選手（同2年）＝同⑥＝と水野皓稀選手（同1年）が独占、オープニングラップからトップに浮上した角谷選手が単独走行で余裕の勝利を決め、さらに水野皓稀選手（同1年）が4位入賞しました。

ヨット部は秋季中部学生で優勝

9月23、24の両日、豊田自動織機海陽ヨットハーバー（愛知県蒲郡市）で開催された「2017年度秋季中部学生ヨット選手権大会」の470で、本学ヨット部が優勝しました。この結果を受け、ヨット部は第82回全日本学生ヨット選手権大会（10月31日～11月5日・福井



表彰されるヨット部

県若狭和田マリーナ）に470クラス中部水域代表として出場しました。



6回目の優勝を飾った本学弓道部

対戦。愛工大B（31中）-中部大A（28中）の成績により優勝を収めました。本学Bチームは射道優秀賞を受賞したほか、主将の小林達矢選手は12射皆中により男子皆中賞を受賞しました。小林主将は「冬の大会で予選敗退した悔しさを糧に、東海大会に向けてチーム一丸となって頑張ってきました。これからもこの結果に満足せず、日々努力を続けていきたいと思っています。」と話しています。

大学弓道部が東海学生選手権優勝

本学弓道部が第60回東海学生弓道選手権大会（5月27、28日・愛知県体育館特設弓道場）男子団体戦で、13年ぶり6回目となる優勝を果たしました。

本学Bチームが予選上位16チームによる決勝トーナメントに進出し、決勝では中部大学Aチームと

中高卓球選手は国際大会でも大活躍

中高卓球部の選手は今年の国際大会でも見事な成績を収めています。高校の木造勇人選手はITTFワールドツアープラチナ・中国オープンの男子ダブルスで張本智和選手（JOCエリートアカデミー）とペアを組み、準優勝しました。準決勝では今年の世界選手権金メダルペアの中国の樊振東選手（世界ランキング2位）／許昕選手（同3位）を破る大金星を挙げました。木造選手は同大会の21歳以下の部では優勝、韓国で開かれたアジアジュニア選手権のジュニア男子シングルスでも準優勝しました。高見真己選手もITTFワールドツアープラチナ・ジャパンオープン21歳以下の部3位の成績を収め、さらにITTFチャレンジ・ベルギーオープンでは男子シングルス準優勝を飾りました。附属中の選手たちも濱田一輝選手がワールドカデットチャレンジにアジアチームとして出場し優勝するなど、世界の舞台で活躍しています。

木造・高見・田中選手が世界ジュニア卓球イタリア大会へ

2017世界ジュニア卓球選手権イタリア大会（11月26日～12月3日）の日本代表選考会は9月15～17日に千葉県旭市総合体育館で開かれ、全国の強豪がひしめく中で名電高校の田中佑汰選手が優勝、高見真己選手が2位、宮本春樹選手が3位となりました。この結果と強化本部推薦、U18世界ランキングを合わせ、名電高校から田中、高見選手と木造勇人選手が今年の世界ジュニアに出場します。

奥田・大学野球部前監督に連盟感謝状



新井野理事長から感謝状を受ける奥田好弘前監督

愛知大学野球連盟は6月1日、理事として連盟の発展に尽力した本学硬式野球部の奥田好弘前監督に対して平成29年度春季リーグ戦の閉会式の中で感謝状を贈りました。

奥田前監督は昭和63年から平成28年まで連盟理事（平成23～24年と27～28年の4年間、常任理事）を務め、平成18～24年に連盟監督会幹事長、平成23～27年には全日本大学野球連盟監督会常任理事を務めました。

閉会式はパロマ瑞穂野球場で開かれ、愛知大学野球連盟の新井野洋一理事長が奥田前監督に感謝状を手渡しました。

大学生の主な対外競技成績

(学生委員会資料)

卓球部

- ▼第70回ひろしまオープン(4/1～2) 男子団体3位、男子シングルス優勝松下大星(3年)
- ▼第17回全国百万石オープン(4/22～23) 女子団体2位
- ▼ITTF チャレンジスロベニアオープン(4/26～30) 男子アンダー21 優勝松山祐季(1年)
男子ダブルスベスト8 吉村(3年)・松山(1年)
- ▼東海学生卓球新人大会(5/6) 男子ダブルス優勝田中・中ノ瀬、女子ダブルス優勝上田・喜納
同準優勝小林・松本 男子シングルス優勝田中侑人、同準優勝中ノ瀬聡汰
女子シングルス優勝小林瑞季、同3位松本静香
- ▼東海学生卓球春季リーグ戦(5/12～14) 男子1部リーグ優勝 女子1部リーグ優勝
- ▼平成29年前期日本卓球リーグ松江大会(6/7～11) 男子1部リーグ6位
- ▼東海学生卓球選手権(6/23～24) 男子ダブルス優勝上江洲(4年)・松下(3年)、同3位卯木(4年)・堀(4年) 女子ダブルス優勝楠川(4年)・石田(2年)、同準優勝大田(4年)・村上(4年)、同3位中畑(3年)・船本(2年) 男子シングルス優勝松下大星(3年)、同準優勝上江洲光志(4年)、同3位田中侑人(1年) 女子シングルス優勝 中畑夏海(3年)、同準優勝石田葵(2年)
- ▼第87回全日本大学総合卓球選手権(7/6～9) 男子3位、女子ベスト8
- ▼第57回東海関西対抗学生卓球大会(8/8～9) 男子優勝松山祐季(1年)、同3位和田航大(2年)

陸上競技部

- ▼東海学生陸上春季大会(4/9) 3000m 総合1位植松達也(2年) 1500m 総合3位児玉勘太(2年)
- ▼第83回東海学生陸上競技対校選手権(5/12～14) 3000SC 決勝2位植松達也(2年)
- ▼2017日本学生陸上競技個人選手権(6/9～11) 3000SC 総合20位植松達也(2年)
- ▼秩父宮賜杯第49回全日本大学駅伝対校選手権東海地区選考会(7/9) 優勝

ゴルフ部

- ▼第50回中部アマチュアゴルフ選手権競技・予選(5/12) 2位河合和真(3年)
- ▼第38回東海テレビ杯争奪中部学生ゴルフ選手権競技(5/9～10) 4位河合和真(3年)
- ▼中部学生ゴルフ春季1・2部大学対抗戦(5/16～17) 2位

フェンシング部

- ▼第67回関西学生フェンシングリーグ戦・フルーレの部(4/22～23) 準優勝 サーブルの部(5/13～14) 準優勝 エペの部(5/19～20) 3位

レーシングカート部

- ▼2017鈴鹿選手権シリーズ第2戦カートレースIN SUZUKA(4/29～30) RMCクラス優勝水野皓稀(1年)
- ▼2017石野メガ3時間耐久春耐ISHINO(4/23) 3位角谷晶紀(2年)・岡崎幹(2年)
- ▼2017ROTAX MAX CHALLENGE SERIES 第2戦(5/5～7) 優勝水野皓稀(1年)

弓道部

- ▼第11回ナゴヤユニバーシティカップ(4/2) 3位濱田淑希(3年)
- ▼第60回東海学生弓道選手権(5/27～28) 優勝(射道優秀校・皆中賞3年小林達矢)

硬式野球部

- ▼春季リーグ戦(4/8～6/1) 2部Bリーグ3位
- ▼愛知大学野球連盟新人戦(6/10～18) ベスト4

柔道部

- ▼第64回東海学生柔道夏季優勝大会(5/21) 2部優勝(1部リーグ昇格)

ヨット部

- ▼2017中部470級ヨット選手権(6/3～4) 2位鈴木(4年)・柴本(1年)・仲村(1年)
- ▼2017中部学生女子ヨット選手権兼中部オープン(6/24) 3位石黒(3年)・兵藤(2年)
- ▼中部学生ヨット個人選手権(7/1) 優勝石黒(3年)・兵藤(2年)、準優勝鈴木(4年)・柴本(1年)
- ▼蒲郡ウィーク(夏)ヨット選手権(7/9) 優勝石黒(3年)・兵藤(2年)
- ▼2017年度秋季中部学生ヨット選手権(9/23～24) 優勝

バドミントン部

- ▼第65回愛知学生バドミントン選手権(6/12～15) 男子ダブルスベスト4 森下(3年)・塔田(1年)

ソフトテニス部

- ▼第94回愛知学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦(5/27～6/4) 男子2部残留、女子3部残留
- ▼第95回愛知学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦(9/9～17) 男子2部残留、女子3部残留

自転車同好会

- ▼第24回トリアスロンフェスティバルinフォレストヒルズ(6/25) 個人B一般男子2位鈴木宇輝(1年)

洋弓部

- ▼2017年度東海学生アーチェリー個人選手権(8/12～23) ベスト16 本多和樹(3年)、宮島健人(3年)

自動車部

- ▼全中部学生ジムカーナ選手権(5/21) 2位

クラブ表彰ほか（5～10月）

学園は7～10月にかけて、全国大会に出場する大学4クラブ、中高15クラブに対してクラブ表彰を行いました。後藤泰之理事長らが各部の顧問、部員を激励し、クラブ活動後援会、高校PTA、高校同窓会からもお祝いが贈られました。高校フェンシング部の尾矢陽太選手に対する海外遠征費補助も交付されました。クラブ活動後援会も5月22日の総会の席上、中学卓球部（全国中学選抜大会優勝）、高校卓球部（全国高校選抜大会優勝）、高校フェンシング部（全国高校選抜大会優勝）、大学競技スキー部（四方元幾選手が全日本スキー選手権優勝）の4クラブをクラブ活動後援会として表彰しました。



7月19日に表彰されたクラブ



祝福する辻本昌孝・クラブ活動後援会副会長



尾矢陽太選手（左から3人目）



10月13日に表彰されたクラブ



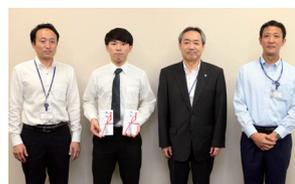
大学卓球部



クラブ活動後援会総会で挨拶する高橋治朗会長



クラブ活動講演会の表彰を受け、大会の報告をする4クラブ監督ら



大学フェンシング部



大学陸上競技部

クラブ表彰を受けた部活と出場大会

大学男子卓球部・女子卓球部（全日本大学総合卓球選手権・団体の部）▼高校卓球部、フェンシング部、バレーボール部、相撲部、ウエイトリフティング部、陸上競技部、自転車競技部（全国高校総体）▼高校ウエイトリフティング部（全国高校女子ウエイトリフティング競技選手権）▼高校チアリーディング部（JAPAN CUP2017 チアリーディング日本選手権）▼高校将棋部（第53回全国高校将棋選手権）▼中学ウエイトリフティング部（第31回全国男子中学生ウエイトリフティング競技選手権）▼中学フェンシング部（第3回全国中学生フェンシング選手権）▼大学フェンシング部（第67回全日本学生フェンシング王座決定戦）▼大学陸上競技部（2017日本学生陸上競技個人選手権）▼高校吹奏楽部（全日本吹奏楽コンクール）▼高校水泳競技部（全国高校総体、全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会）▼高校陸上競技部（U18日本陸上競技選手権）▼中学卓球部（全国中学校卓球大会）

名電出身の親方・力士を励ます会

「名電出身の親方・力士を励ます会」が7月16日夜、若松親方（元朝乃若）、山分親方（元武雄山）と三段目力士として名古屋場所に臨んだ駒木龍（木瀬部屋）、大司（入間川部屋）を迎え、名古屋市内のホテルで開かれました。

毎年名古屋場所中日に開く「励ます会」の呼び掛け人であり、昨年10月1日に急逝した前相撲部監督・澤田勉先生に全員で黙とうを捧げ、励ます会は始まりました。若松、山分両親方から、インターハイに出場する高校相撲部の後輩たちに激励賞が贈られた後、親方、力士たちが近況を報告し、ともに2勝2敗の成績で名古屋場所を折り返した駒木龍と大司は「澤田先生から教えてもらったことを今後も続けていけるように精進します」などと誓いの言葉を述べました。

この後、相撲部屋の力士の生活などをテーマにトークショーが繰り広げられ、日ごろ相撲協会の仕事と弟子の指導に追われる親方たちもリラックスした笑みを浮かべていました。



トークショーに参加した駒木龍（中）と大司

卒業生の活躍

発行 名古屋電気学園クラブ活動後援会・学園事務局総務部